

2011/08/28

日本PF学会課題研究委員会(広島地区)〈於:広島大学東千田キャンパス305号演習室〉

## 子育て支援と子ども観に関する調査研究(2)

湯地 宏樹(比治山大学短期大学部)



### 研究の目的

- 本研究では、「子ども観」に着目し、①保護者②保育者③大学生④保育者志望学生⑤高校生などを対象として「子ども観」に関する調査を行い、それぞれの「子ども観」の違いや特徴などを明らかにし、子育て支援の課題や対策を明らかにしたい。また、いずれ親になるだろう、高校生・大学生を対象として、時系列的な調査を行い、「子ども観」の形成過程を明らかにしたい。

## 先行研究

- 大学生を対象として、とくに実習前後の子ども観を比較した研究(大滝、2004;岡田、2006;谷口・長谷川・石井・泊・西田・豊永、2007;星野・日瀉・吉田、2008;遠藤・後藤、2004年;吉田・佐藤、1991)。
- 保育・教育者のもっている子ども観、子ども像、保育・教育観などのあらゆる観念形態(Belief System)に関する研究(森・大元・西田・植田、1984;森・大元・植田・西田、1985;森・植田・大元・西田・湯川、1986)。

Page 3

## 「子ども学」の観点

- 佐野美津男『人間選書38子ども学』農山漁村文化協会、1980年。
  - 「子どもというのはこういうものだ」とおとなは暗黙のうちに決めつけている。
  - 「子ども像」ではなくて、「子ども観」が大切。
    - \* 像派
      - 子ども像によって子どもを捉えようとする人
      - 期待される人間像「こうあるべき」
    - \* 観派
      - 子ども観によって子どもを捉えようとする人
- 津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館、1979年。
  - 「子ども学は子どもとは別のところでつくられた理論の応用ではない。」「子どもとふれるところにつくられる知恵である」
  - 児童心理学でも発達心理学でもなく、「子どもの世界そのもの」を研究する分野。

Page 4

## 調査方法

- 調査対象：H短期大学の保育学生99名
- 調査方法：次の①～③の調査については、別々に実施した。①は入学時、②に関しては実習オリエンテーション時に4回実施し、その場で回収した。③に関してはwebで4回実施している。

- ① 基礎調査(性別、学年、志望動機、中・高校の実習体験・職場体験などの有無など)
- ② 子どものイメージに関する41項目(岡田(2006)と星野・日潟・吉田(2008)の用いた項目を引用。)
- ③ 保育観や子どもの援助等に関する設問31項目(森・大元・西田・植田、1984など)

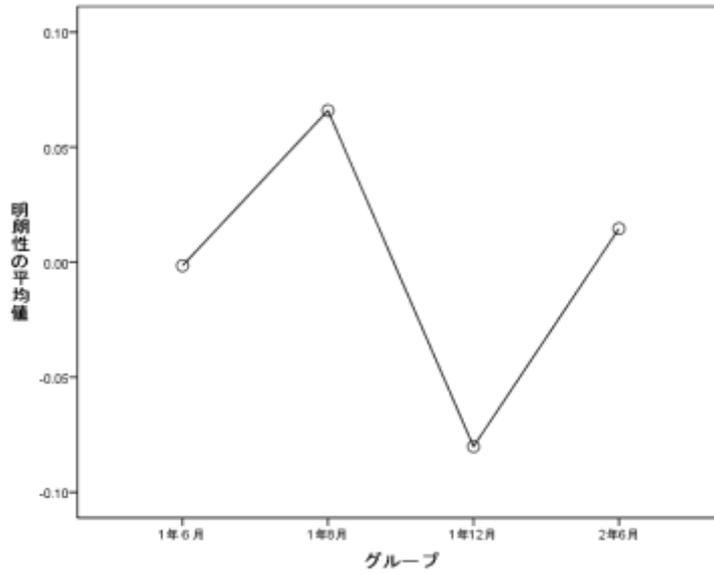
- 調査時期：次の時期に4回実施した。

- ① 2010年6月(実習前)
- ② 2010年8月(実習後)
- ③ 2010年12月(実習後)
- ④ 2011年6月(実習後)



図2 子どものイメージ〈明朗性〉についての年次比較

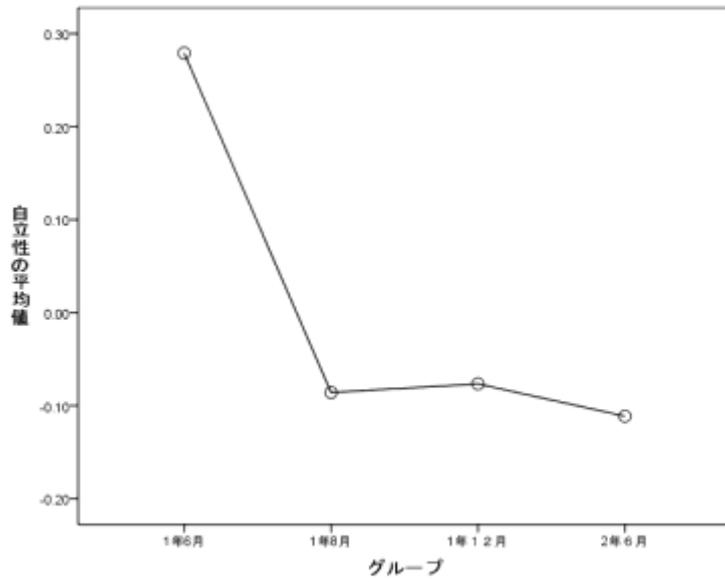
$F(3, 385) = 0.356$  n.s.



Page 7

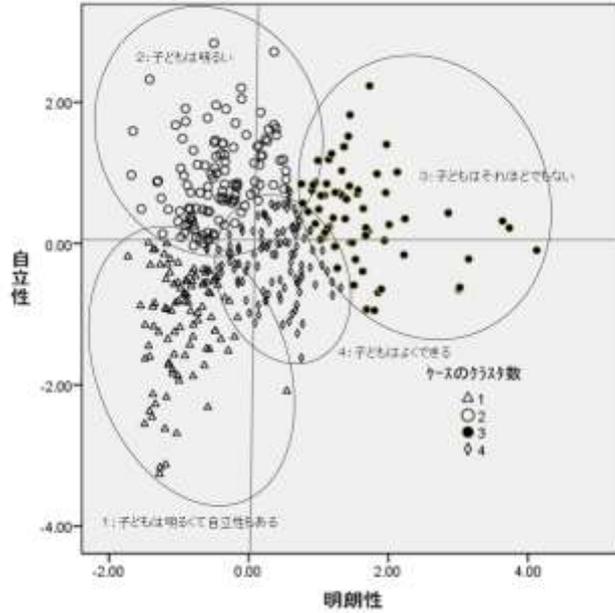
図3 子どものイメージ〈自立性〉についての年次比較

$F(3, 385) = 3.355$   $p < .05$

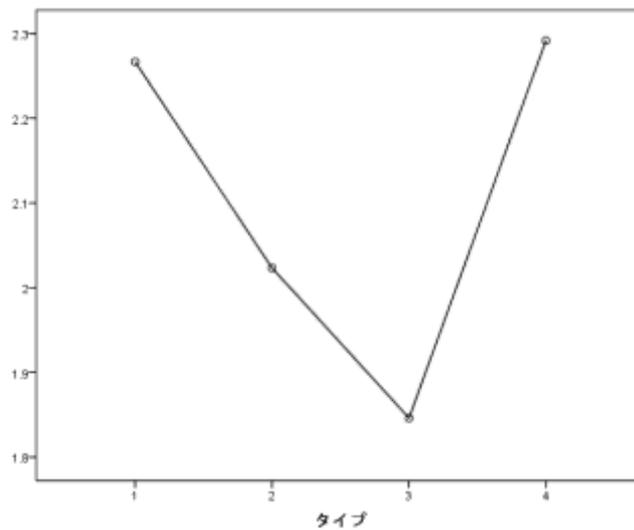


Page 8

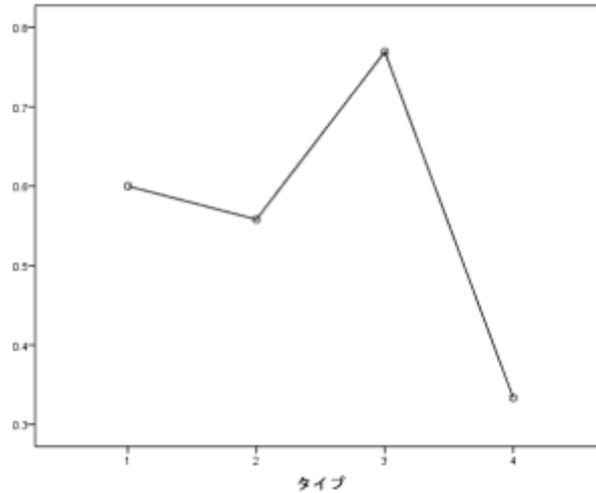
図4 子ども観(イメージ)の4つのタイプ



あなたは友達に比べて保育に関する本(単行本)を読みますか



年長児のC君は自分のやりたいことを見つけ、それに熱中し、いつもひとりで遊んでいます。  
このC君をあなたはどのように思いますか



Page 11

## <引用・参考文献>

- 遠藤芳子・後藤順子「小児看護学(幼稚園)実習の有効性の検討—実習前後の看護学生の子ども観と実習のとらえ方の変化から—」『山形保健医療研究』第7号、2004年、pp.33-44。
- 浜田寿美男『子ども学序説 変わる子ども 変わらぬ子ども』岩波書店、2009年。
- 長谷川真人・神戸賢次・小川英彦(編著)『子どもの権利条約時代の児童福祉3子どもの援助と子育て支援 児童福祉の事例研究』ミネルヴァ書房、2001年。
- 星野修一・日瀨淳子・吉田圭吾「大学生における子ども観に関する一考察」『神戸大学大学院人間発達研究紀要』第2巻、第1号、2008年、pp.33-42。
- 北野幸子・立石宏昭(編著)『子育て支援のすすめ 施設・家庭・地域をむすぶ』ミネルヴァ書房、2006年。
- 森藤・大元千種・西田忠男・植田ひとみ「幼児教育における指導法と保育イデオロギー」『広島大学教育学部紀要』第1部、第33号、1984年、pp.87-96。
- 森藤・大元千種・植田ひとみ・西田忠男「保育学生のBelief System」『広島大学教育学部紀要』第1部、第34号、1985年、pp.153-163。
- 森藤・植田ひとみ・大元千種・西田忠男・湯川秀樹「保育者の指導意識の比較—経験・意欲・指導タイプ別考察—」『幼年教育研究年報』第11巻、1986年、pp.13-23。
- 大滝まり子「教育大生の保育者観、子ども観」『北海道文教大学紀要』第28号、2004年、pp.105-114。
- 岡田恵子「医療保育科学生の保育所実習前後の子どもイメージ、心理社会的発達の変化とこれらの関連性」『川崎医療福祉学会誌』Vol.16 No.2、2006年、pp.377-384。
- 佐野美津男『人間選書38子ども学』農山漁村文化協会、1980年。
- 詫摩武俊『子ども学入門 最新児童心理学に学ぶ知恵』光文社、1981年。
- 谷口恵美子・長谷川桂子・石井康子・泊祐子・西田倫子・豊永奈緒美「子どもと養育者の継続的観察による学生の学習成果」『岐阜県立看護大学紀要』第8巻1号、2007年、pp.19-24。
- 湯地宏樹「保護者とのパートナーシップ」『保育ライブラリ幼児教育の方法』(編者小田豊・青井倫子)北大路書房、2009年。
- 吉田道雄・佐藤静一「教育実習生の児童に対する認知の変化 実習前、実習中、実習後の「子ども観」の変化」『日本教育工学雑誌』15(2)、1991年、pp.93-99。

Page 12